

# 高校日本史プリント（過去問類似）

## 近代 I（開国～明治） No.4

名前

得点

/11

**問1** 明治初期に長野県松本市に建設された、大工棟梁が伝統的な和風技術を用いつつ西洋風の意匠を取り入れて設計した、擬洋風建築を代表する小学校の校舎を何というか。 （2006年 全国公立入試 類似）

1. 開智学校                      2. 中込学校                      3. 赤坂離宮                      4. 新橋駅舎

**問2** 1873年に明治政府が公布した、国民皆兵を原則とする軍事制度に関する法令について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 （2008年 全国公立入試 類似）

1. 廃刀令                      2. 町村制                      3. 府県制                      4. 徴兵令

**問3** 幕末の佐賀藩において、長崎警備の強化や西洋科学技術の導入を主導し、日本初の反射炉築造による大砲製造や、理化学研究所である「精煉方」の設置など、独自の近代化政策を強力に推し進めた藩主は誰か。 （2004年 全国公立入試 類似）

1. 山内豊信                      2. 鍋島直正                      3. 松平慶永                      4. 島津斉彬

**問4** 幕末期、欧米列強の接近に危機感を抱いた諸藩や幕府は、国防を強化するために西洋技術を導入した。このうち、佐賀藩や薩摩藩、伊豆韮山の代官らによって建設され、大砲などの製造に必要な金属を溶かすために用いられた西洋式の金属溶解炉を何というか。 （2011年 全国公立入試 類似）

1. 製鉄所                      2. 造船所                      3. 反射炉                      4. 操練所

**問5** 幕末の政局において、朝廷の急進派公家と結んで尊王攘夷運動を主導し、1863年には下関海峡を通過する外国船を砲撃したものの、のちに欧米4カ国連合艦隊による報復攻撃を受けて攘夷の不可能を悟り、藩論を開国・倒幕へと転換させていった雄藩はどこか。 （2025年 全国公立入試 類似）

1. 土佐藩                      2. 肥前藩                      3. 長州藩                      4. 薩摩藩

**問6** 明治政府は、欧米の先進技術や制度を導入して近代産業の育成を図る殖産興業政策を推進した。この政策において、お雇い外国人の指導のもとで鉄道や電信などの交通・通信網を整備し、佐渡鉱山や長崎造船所などの官営事業を統括・推進した、1870年に設置された中央官庁は何か。 （2017年 全国公立入試 類似）

1. 大蔵省                      2. 工部省                      3. 文部省                      4. 内務省

**問7** 1881年の国会開設の勅諭を契機に、10年後の国会開設に備えて民権派が組織した政党のうち、フランス流の主権在民論を掲げ、地方の豪農や士族層を基盤として結成された組織は何か。 （2007年 全国公立入試 類似）

1. 政友会                      2. 進歩党                      3. 憲政党                      4. 自由党

**問8** 1874年に強行された台湾出兵の後、清国との交渉のために北京へ渡り、イギリス公使の調停もあって、清国側に被害者への見舞金などを支払わせる合意を取り付け、事態を解決に導いた明治政府の政治家は誰か。 （2009年 全国公立入試 類似）

1. 大久保利通                      2. 小村寿太郎                      3. 後藤象二郎                      4. 西園寺公望

**問9** 明治初期、北海道の開拓事業を担う官庁が、その事業や施設を同郷の政商に不当に安い価格で譲り渡そうとしたことが発覚し、世論や自由民権運動派から激しい批判を浴びた。この出来事を何というか。 （2012年 全国公立入試 類似）

1. 日比谷焼打ち事件                      2. 三大事件建白運動                      3. 開拓使官有物払い下げ事件                      4. 明治十四年の政変

**問10** 第1回帝国議会以来、政府は予算案をめぐる野党勢力と激しく対立した。1892年の第2回衆議院議員総選挙において、野党の過半数獲得を阻止するために、警察などを動員して死傷者を出すほどの激しい選挙妨害を主導した松方正義内閣の内務大臣は誰か。 （2005年 全国公立入試 類似）

1. 大隈重信                      2. 後藤象二郎                      3. 品川弥二郎                      4. 松方正義

**問11** 1904年、旅順口包囲軍に加わっていた弟を思い、雑誌『明星』に詩「君死にたまふこと勿れ」を発表した、明治から昭和にかけて活躍した歌人は誰か。 （2006年 全国公立入試 類似）

1. 与謝野晶子                      2. 樋口一葉                      3. 野上弥生子                      4. 山川登美子

## 答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 1 開智学校	明治初期には、日本の伝統的な大工技術を用いて西洋風の外観を模した「擬洋風建築」が各地に建てられた。長野県松本市に建てられたこの校舎は、その代表例であり、現在は国宝に指定されている。
問2	答え 4 徴兵令	1873年に発布されたこの法令は、満20歳以上の男子に兵役を義務づける国民皆兵を原則としたが、戸主やその跡継ぎ、官吏、官立学校生徒、代位料（270円）支払者などを兵役免除とする広範な免役規定が設けられていた。このため、実際に徴兵されるのは農家の二男・三男以下が中心となり、不公平感から各地で反対一揆が発生した。
問3	答え 2 鍋島直正	佐賀藩主の鍋島直正（閑叟）は、藩政改革によって財政を再建したのち、その資金力を背景に西洋の科学技術を積極的に導入した。反射炉の建設による大砲製造や、蒸気船の製造、さらには天然痘予防のための種痘の導入など、日本の近代化に先駆的な役割を果たした。
問4	答え 3 反射炉	アヘン戦争での清の敗北やペリー来航などの外圧に直面した幕末の日本において、軍事力の強化と国防は急務であった。佐賀藩や薩摩藩、伊豆斐山代官の江川太郎左衛門などは、大砲を自前で製造するために、鉄を高温で溶かす西洋技術を導入した。この目的で建設された金属溶解炉が反射炉であり、日本の初期産業近代化の象徴となった。
問5	答え 3 長州藩	幕末期、尊王攘夷派の急進派として朝廷を動かす、幕府に攘夷決行を迫ったのは長州藩である。長州藩は1863年に外国船砲撃を行ったが、翌年の四国艦隊下関砲撃事件で大敗を喫した。この経験から、攘夷の実行が不可能であることを認識し、イギリスなどの外国勢力と結びつきながら軍備を近代化し、倒幕へと方針を転換していった。
問6	答え 2 工部省	明治政府が殖産興業を強力に推進するために1870年に設置した中央官庁である。鉄道や電信といったインフラの整備や、鉱山・造船などの官営事業を統括し、日本の産業近代化の基盤を築いた。その後、松方デフレ期における財政緊縮や民間の産業発達に伴い、官営事業の多くは民間に払い下げられ、1885年の内閣制度創設に際して廃止された。
問7	答え 4 自由党	明治政府が国会開設を約束したことで、政治運動は政党結成へと向かった。大隈重信系の立憲改進党がイギリス流の議院内閣制や漸進主義を唱えたのに対し、この政党はフランス流の急進的な主権在民論を掲げ、一院制の国会開設などを主張した。
問8	答え 1 大久保利通	台湾出兵の処理にあたり、内務卿であった大久保利通は清国の北京に赴いて交渉を行った。イギリス公使ウェードの調停により、清国が日本の出兵を「義拳」と認め、被害者への見舞金などを支払うことで合意に達した。これにより、琉球島民が日本国民であることが事実上清国に認められる形となった。
問9	答え 3 開拓使官有物払い下げ事件	明治政府は北海道開拓のために開拓使を設置したが、1881年、開拓使長官の黒田清隆が、同郷（薩摩藩出身）の政商である五代友厚らに官有物を不当に安い価格で払い下げようとした。これが新聞等で報じられると、世論や民権派から激しい政府批判が巻き起こり、政府は払い下げの中止と国会開設の勅諭の発表、大隈重信の罷免（明治十四年の政変）を余儀なくされた。
問10	答え 3 品川弥二郎	第1回・第2回議会において、政府は「民力休養・政費削減」を主張する民党と対立しました。衆議院を解散して臨んだ1892年の第2回衆議院議員総選挙において、松方正義内閣の内務大臣であった品川弥二郎は、地方官や警察を動員して民党への激しい選挙干渉を行いました。この干渉は死者25名、負傷者380名余りを出す惨事となり、世論の激しい非難を浴びて品川は辞職に追い込まれました。
問11	答え 1 与謝野晶子	詩「君死にたまふこと勿れ」は、日露戦争中の1904年に発表された。作者は与謝野晶子であり、彼女は夫の与謝野鉄幹らとともに雑誌『明星』を中心にロマン主義文学を推進したことで知られる。